

近年の農業生産資材の高騰について

令和8年9月
関東農政局 茨城県拠点

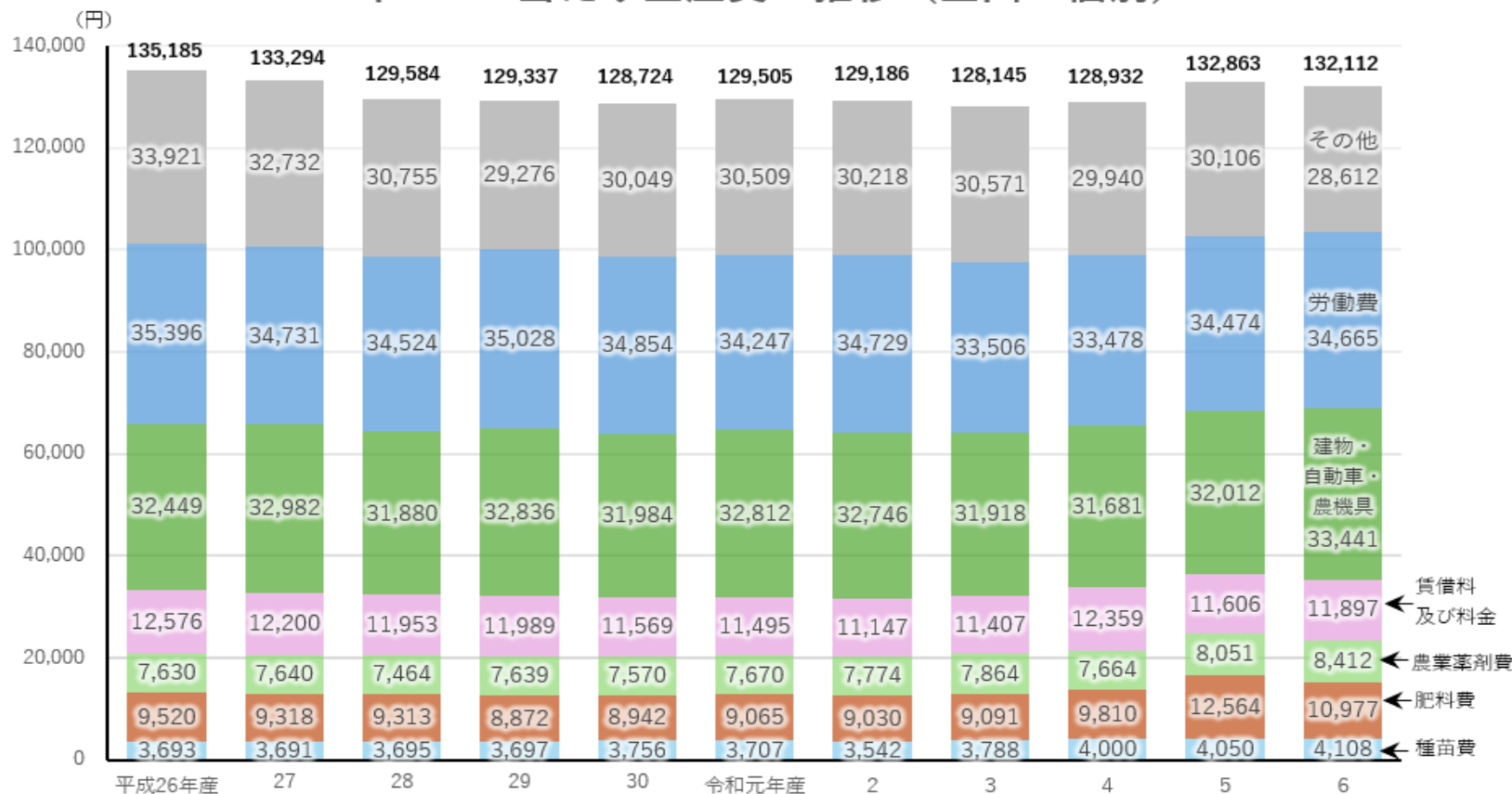
1 生産コストの動向

－ 米 －

米の10a当たり生産コストは、おおむね横ばいから減少傾向で推移していましたが、令和4年と令和5年は増加に転じました。令和6年産は13万2,112円でほぼ前年並みとなりました。

特に肥料費は9千円前後で推移していましたが、令和4年産は9,810円、令和5年産は12,564円、令和6年産は10,977円と大きく増加しています。

米の10a当たり生産費の推移（全国・個別）



資料：米生産費

注：「その他」は表示している費用以外の費用の合計から副産物価格を差し引いて計上している。（以下同じ。）

(参考) 茨城県の米の生産コスト

茨城県における米の生産コスト（令和6年産）

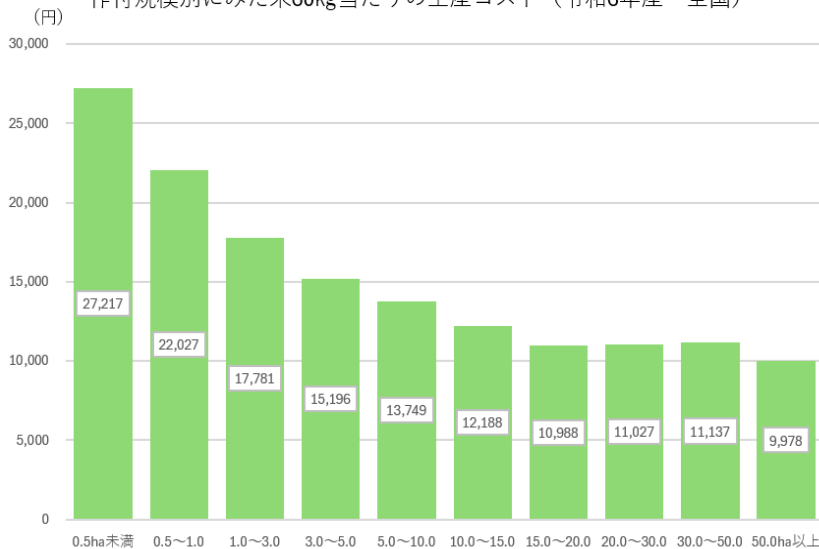
区 分	単位	全 国	茨城県	対全国比
10a 当たり				%
物 財 費	円	83,079	70,161	84.5
うち 種 苗 費	〃	4,108	2,945	71.7
肥 料 費	〃	10,977	9,365	85.3
農 業 薬 剤 費	〃	8,412	7,061	83.9
賃 借 料 及 び 料 金	〃	11,897	7,951	66.8
建 物 ・ 自 動 車 ・ 農 機 具	〃	33,441	27,206	81.4
労 働 費	〃	34,665	31,705	91.5
費 用 合 計	〃	117,744	101,866	86.5
生 産 費 （ 副 産 物 価 額 差 引 ）	〃	112,998	98,457	87.1
支 払 利 子 ・ 地 代 算 入 生 産 費	〃	118,803	110,195	92.8
資 本 利 子 ・ 地 代 全 額 算 入 生 産 費	〃	132,112	122,692	92.9
60 kg 当 たり 全 額 算 入 生 産 費	円	15,814	14,365	90.8
10 a 当 たり 収 量	kg	500	513	102.6
10 a 当 たり 労 働 時 間	時間	21.26	19.80	93.1
1 経 営 体 当 たり 作 付 面 積	a	189.1	182.7	96.6

注：茨城県の結果は、全国設計に基づいた34経営体の結果であることに留意。

茨城県の令和6年産の米の生産コストは、10a当たり12万2,692円(全国比92.9%)、60kg当たり1万4,365円(同90.8%)となっています。

作付面積は全国とほぼ同水準で、10a当たり収量は上回っていますが、各費用や労働時間が全国を下回っています。

作付規模別にみた米60kg当たりの生産コスト（令和6年産・全国）



作付規模別(全国)に60kg当たりの米の生産コストをみると、作付規模が大きくなるにつれてスケールメリットにより生産コストが低減し、50ha以上では9,978円で、0.5ha未満の4割以下のコストとなっています。

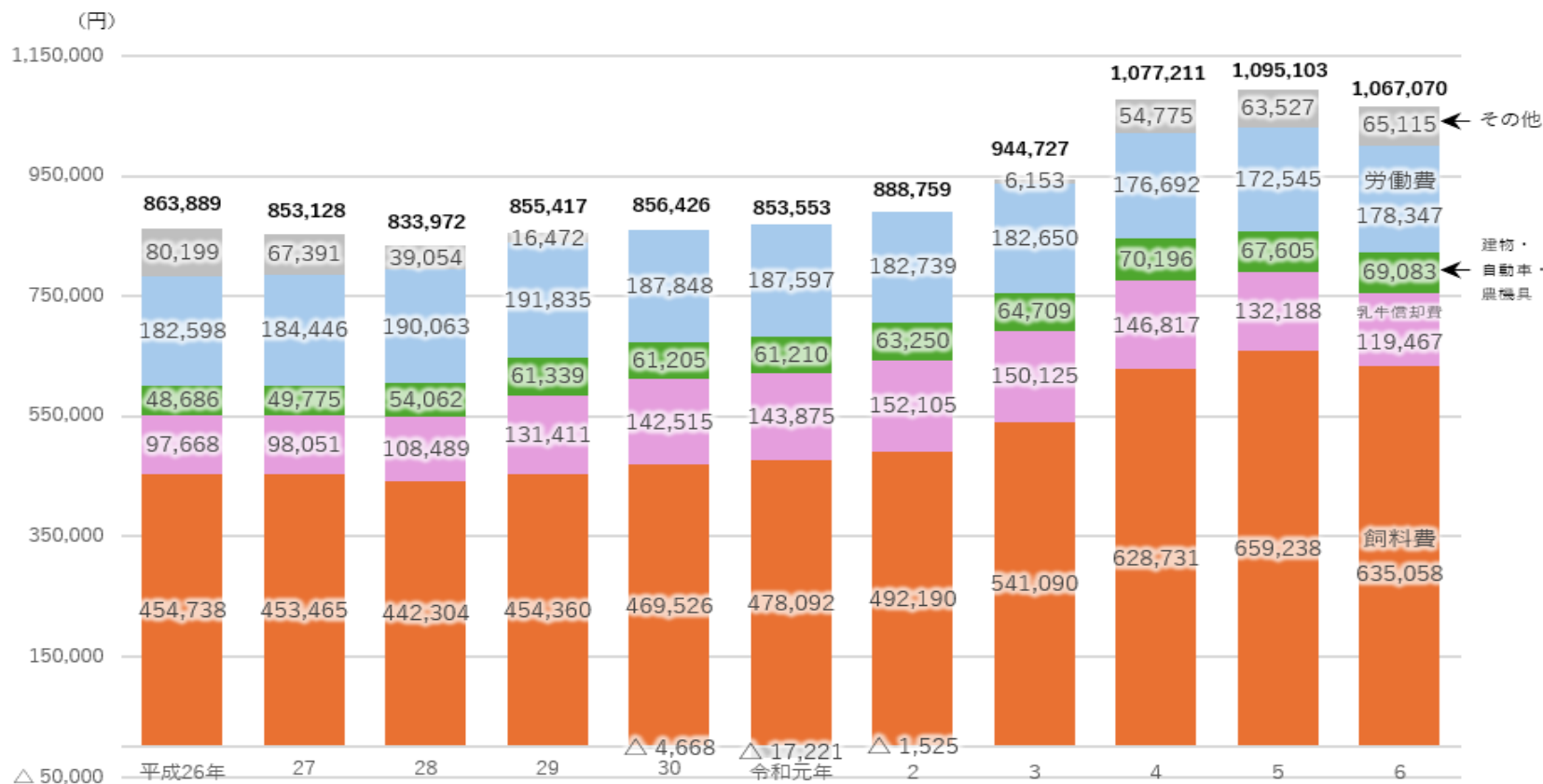
1 生産コストの動向

－ 牛乳 －

搾乳牛1頭当たり生産コストは、おおむね85万円前後で推移していましたが、令和2年以降増加し、令和6年は106万7,070円となっております。

特に生産コストの約半分を占める飼料費は45万円前後で推移していましたが、令和2年産以降増加し、令和6年は635,058円となっております。

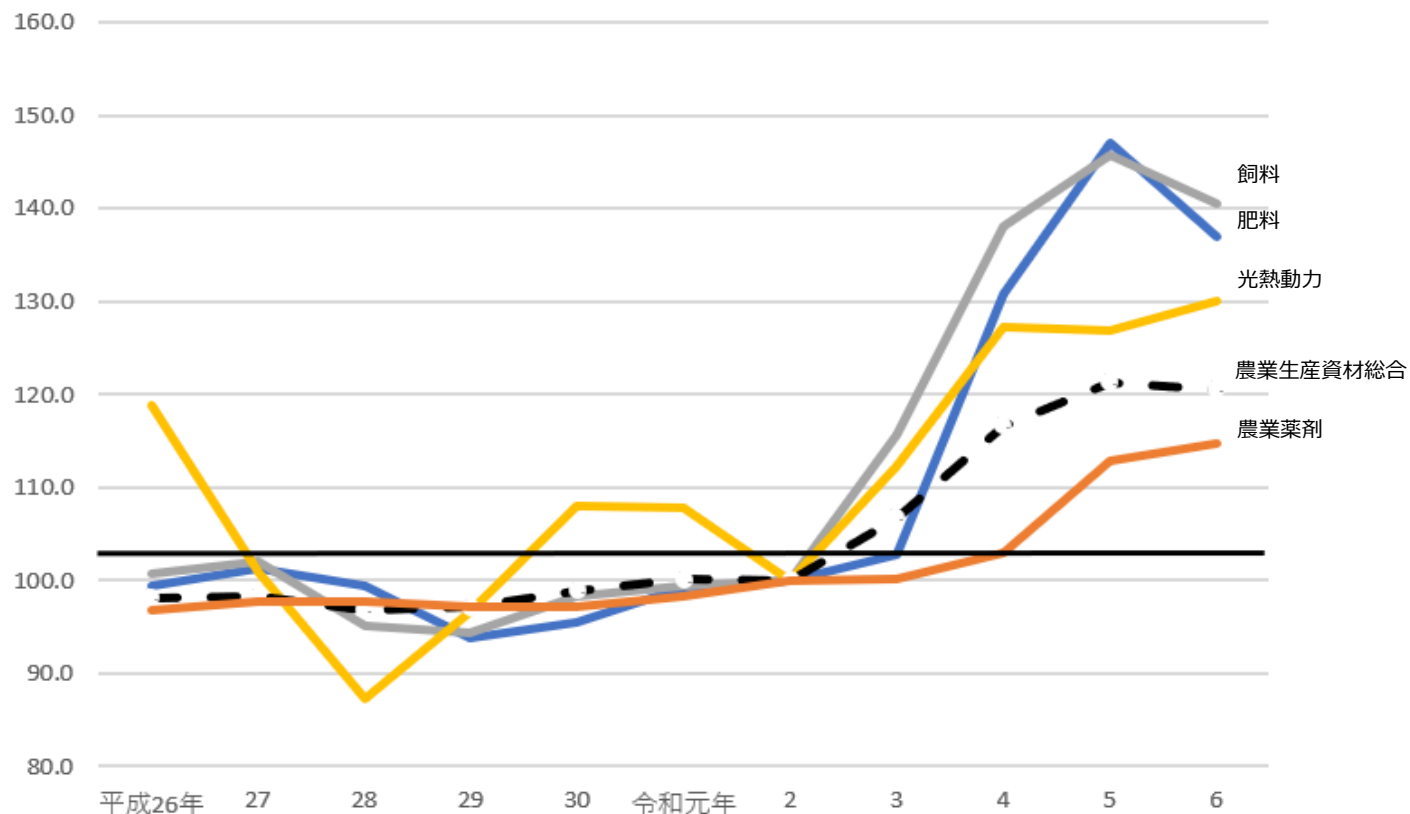
搾乳牛 1 頭当たり生産費の推移（都府県・個別）



2 農業生産資材価格の動向

農業生産資材の価格指数をみると、令和2年以降、主要な農業生産資材価格は高騰しており、令和6年の農業生産資材総合は、120.6となっています。
特に耕種部門の生産に不可欠な肥料は136.9、畜産部門の生産コストの4～7割を占める飼料は140.5となっていますが、前年に比べて減少しました。

農業生産資材の価格指数（令和2年基準）

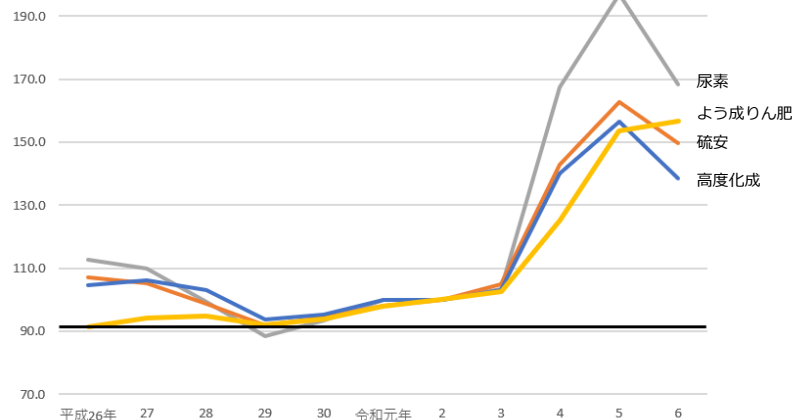


資料：農業物価統計調査

2 農業生産資材価格の動向と対策

(1) 肥料

主な肥料の価格指数（令和2年基準）



資料：農業物価統計調査

耕種部門に不可欠な化学肥料の原料である尿素、りん安、塩化加里は、ほぼ全量を輸入に依存。令和3年以降、世界情勢等の影響を受け、主な肥料は令和4年以降価格が高騰しています。

【肥料コスト低減対策】

肥料原料の国際価格の変動による影響を緩和するためには、

○国内資源の活用等

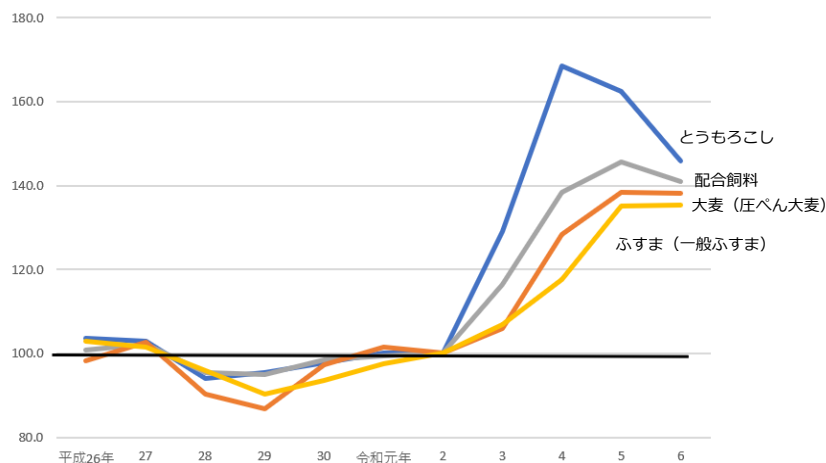
家畜排せつ物由来堆肥や下水汚泥資源など肥料成分を含有する国内資源の活用

○みどりの食料システム戦略

「2050年までに輸入原料や化石燃料を原料とした化学肥料の使用量を30%低減する」との目標を掲げ、有機物の循環利用、土壌診断等に基づく施肥の効率化等に取り組む必要があります。

(2) 飼料

主な飼料の価格指数（令和2年基準）



資料：農業物価統計調査

畜産部門の生産コストの4～7割を占める飼料の国内自給率は26%（濃厚飼料にあっては約13%）で輸入に大きく依存。肥料同様、令和3年以降は世界情勢の影響等を受け、飼料価格が高騰しています。

【飼料コスト低減対策】

国際情勢に左右されにくい持続的な畜産物生産のためには、

○国産飼料基盤に立脚した生産への転換

省力的で栄養価の高い飼料作物の生産拡大、耕畜連携等の推進、飼料も含めた地域計画の策定

○放牧の推進

飼料の生産・給与や家畜排せつ物処理の省力化が可能で、経営のコスト低減に有効

○エコフィードの推進

地域の未利用資源や食品製造副産物等を利用したエコフィードの利用推進等に取り組む必要があります。